



災害に備える！キャンプで使える！

防災アウトドア入門【5】

◆いざという時に備える！

第5回授業テーマは、「いざという時に備える『オリジナル非常持ち出し袋』を考えよう」です。

これまでの授業で、受講生それぞれがアウトドアを学び、災害時にも役立つ技術とマインドを身に付けてきました。では、実際に災害が起きた時に備え、日頃からどのような準備があれば役に立つのか？これまでの学習を振り返りながら、教室みんなで考えました。

授業冒頭では、これまで全ての授業に参加してくれた南海中学校のNSP（南海サバイバルプロジェクト／防災に関する活動を行う部活）の生徒たちから、NSPの活動紹介をしていただきました。

地域のお祭りやボランティア活動にも積極的に参加しており、学校での避難訓練を自主的に企画し、住民の方々との連携も定期的に図っているそうです。



授業では、NSPが制作・編集を行った「防災マップ」の配布もありました。受講生に手渡していく時も、一つ一つ丁寧に避難場所の説明をしていきます。避難経路が見やすく、分かりやすく示されたマップは、実際に避難する際のリアルな状況をイメージできるようになっています。

この避難経路は、顧問の先生と生徒さんたちが地域を練り歩き、状況をチェックして作成したそうです。生徒たちに話を聞いてみると、例えば、とある避難経路は「道の傾斜はきつくないが、落ち葉が多く、雨の後は滑りそうに感じた」「山道なので、夏場の避難では虫が多く大変そうだった」など、実際に現場を歩いたからこそ出てきた感想もありました。

知識として知っているだけでなく、実際に行ってみる・やってみることの大切さも、NSPの皆さんから教えていただきました。

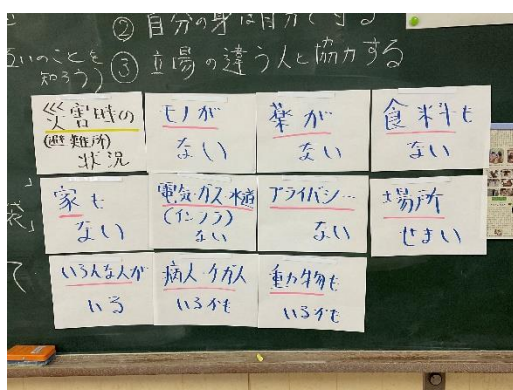
◆災害時をリアルに想像できますか？



次に、これまでの講義の振り返りを行いました。

第2回では、「食を考える」として、火起こしを。第3回では、「住を考える」として、ロープワークとターピングを。第4回では、「ライフラインを考える」として、ソーラー発電装置づくりを実践してきました。

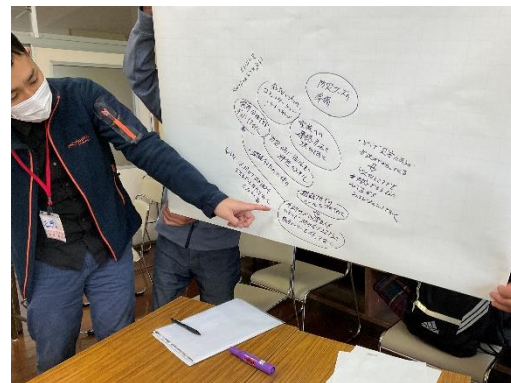
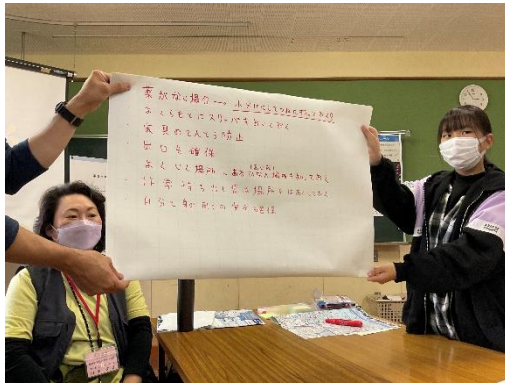
いろいろやってきたけれど、講師の菊間先生からは「災害を意識することって、意外と難しい」とのお話がありました。継続的に災害を意識すること、そして考えることによって、実際の現場で生き延びることができる」と強調します。受講生から「災害をイメージしても、実際に正しい行動が取れるか不安…」という声も聞こえてきました。



そこで、次のワークでは、「災害時に必要な行動と資質」を、グループに分かれて考えました。

災害時は、大前提として「モノがない」とはもちろん、「家もない」「インフラもない」「プライバシーがない」「(避難場所には)いろんな人がいる」など、平時と異なる様々な状況が考えられます。

菊間先生から「まずは、必要なモノを考える以前に、どのような行動やマインドが大事か考えよう」と助言が入ります。



非常時は、混乱の中でいろいろな人が、同じ場所で生活することになります。受講生からは、「集まった人たちが役割分担をする」「情報を的確にキャッチできる環境を整備する」「リーダーシップを持って行動する」などが必要という声が。また、日頃の備えとして、「どこで災害に遭うか分からないため、広域マップ等を使用して、事前に確認しておく」「登校時、通勤時の避難所・避難経路をよく確認しておく」「ペット防災を再確認する」などの意見も出ました。

菊間先生からは、「私たち日本人は、決められたルールに則った行動は得意だけれど、主体的に考えて動くことは苦手」との言葉があり、だからこそ、この教室ではアウトドアを通して学び、実践することを大事にしてきました。

アウトドアは、気象条件や限られた物資など、自分でコントロールできない状況の中で、主体的に考え動き、状況を打開する必要があります。学んだことが、普段の生活だけでなく、災害時にもきっと役に立つはずです。

その後はいよいよ、「オリジナル非常持ち出し袋」作成の時間に入ります。



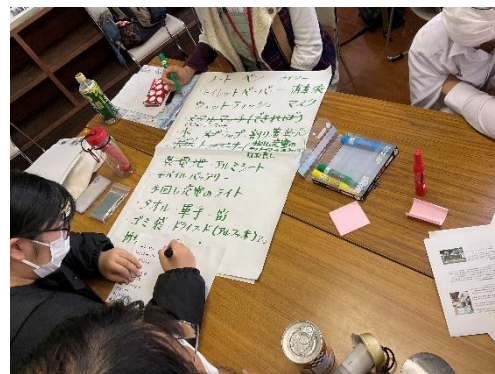


振り返ってみると、「ライフラインが無い」「家が無い」「プライバシーが無い」などの、災害時に想定される状況に対し、火起こしやソーラー発電、ロープワークとターピングなど、状況を打開する方法をこれまで学んできました。この教室で学んだことを活かして、本当に役に立つ「オリジナル非常持ち出し袋」を作ります。

まずは、グループごとに、受講生それぞれが持ってきたグッズを紹介しあいながら授業が進みます。

避難時に使用する、コンパクトヘルメットを持参した受講生。救急セットが充実したアウトドア兼用の防災バッグを丁寧に説明する受講生など、様々です。

先ほど話した「行動と資質」も踏まえて、どんなものが必要かを改めて意見を出し合いました。次回までにグッズを揃え、各グループで「オリジナル非常持ち出し袋」を完成させます。



菊間先生は「全てを防災用の特別なグッズで揃える必要はありません。むしろ、普段使いの道具の方が、使い慣れていて非常時にも役立つ。例えば、普段からアウトドアに親しみ、安価でもいいので一定のキャンプギアを揃えておけば、いざという時にもスムーズに使うことができます。」とのこと。

ただでさえ混乱している非常時に、使い慣れていない防災用の道具を、説明書を見なが

ら操作することはかなり難しいと思われます。普段から楽しみながらアウトドアに親しんでおけば、防災を「特別なこと」として身構えなくても済むんですね。

それに関連して、非常食のお話もありました。

一般的に缶詰や長期保存水などの災害用非常食は、消費期限が長く設定されています。でも、棚の奥や非常持ち出し袋にしまって、気づいたら期限が過ぎていた…なんてこと、ありませんか。

最近では、普段食べ慣れているレトルト食品や水を少し多めにストックしておき、日常の中で消費しながら新しいものに入れ替えていく「ローリングストック」が推奨されています。これなら、期限が切れる失敗も無く、さらにもしもの時にも普段と同じものを食べられるので安心ですね。

「防災のため」というと、堅くて特別なことのように思えます。でも、この教室で学んできたことは、楽しみながら学べて普段の生活にも役立つ、アウトドアの技術とマインド。これは「生きる力」と言ってもいいかもしれませんね。

◆次回予告

さて、次回はいよいよ最終回（成果発表会）です。

他の教室の受講生や見学者に、これまでの学びの成果を発表します。アウトドアの実践と防災の知識の融合をぜひ、見に来てください。

●地域おこし学校「こうちみませ楽舎」成果発表会詳細

日 時 令和4年12月10日（土） 9時40分～12時00分

（受付 9時20分～35分）

場 所 旧御畳瀬小学校 （高知市長浜209番地） 駐車場あり